

平成29年度 第4回熊本市障がい者自立支援協議会

日時 平成30年2月23日（金） 午後3時から

会場 熊本市役所別館自転車駐車場8階会議室

出席者 日隈委員、秋成委員、大島委員、谷口委員、東委員、園田委員、平田委員、中島委員、大山委員、田尻委員、山田浩三委員、平川委員、江島委員、堀内委員、福島委員、原田委員、篠原委員、近藤委員、勝本委員、多門委員、西委員、松村委員、本田委員、干川委員、山田勝久委員

欠席者 永井委員、宮田委員

配布資料

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 資料1-1 第5期熊本市障がい福祉計画及び第1期熊本市障がい児福祉計画の策定について（報告）
- ・ 資料1-2 第5期熊本市障がい福祉計画（第1期熊本市障がい児福祉計画）
【案】
- ・ 資料2 熊本市障がい者相談支援事業業務委託及び熊本市障がい者地域支援事業業務委託 の公募結果について（報告）
- ・ 資料3 サービス等利用計画作成に係るモニタリングの取り扱いについて
【相談支援部会提案内容に係る進捗状況報告】
- ・ 資料4 平成30年度 制度改正について
- ・ 資料5 各部会報告資料
- ・ 退院支援ポスター（精神障がい者地域移行支援部会作成）
- ・ 資料6 熊本市優待証（さくらカード）制度のあり方検討について
- ・ 資料7 熊本市障がい者自立支援協議会で取り扱う課題一覧
- ・ 資料8 障害福祉サービス等に係る利用者負担軽減制度の見直しについて
- ・ 平成30年度 熊本市障がい者自立支援協議会日程（予定）
- ・ 平成29年度第4回熊本市障がい者支援協議会 委員事前意見・質問一覧
- ・ 世界自閉症啓発デー講演会チラシ
- ・ つくる・つながる・ひろがる おとなりマルシェチラシ
- ・ 一般避難所、福祉避難スペースに必要な物品について（照会）
- ・ 平成30年度 熊本市障がい者自立支援協議会日程（予定）

議事

進行	<p>1 開 会</p> <p>ただ今より、平成29年度第4回熊本市障がい者自立支援協議会を開会いたします。</p> <p>協議会の議事に移らせていただきます。時間の都合により挨拶は省略させていただきます。これからの進行は干川会長にお願いいたします。</p>
会長	<p>2 議 事</p> <p>(1) 新たな取り組み等の概要紹介について</p> <p>それでは、本日の議事に入ります。</p> <p>まず、議事(1)新たな取り組み等の概要紹介について、事務局より説明いただきます。</p>
事務局	<p>■第5期熊本市障がい福祉計画及び第1期熊本市障がい児福祉計画の策定について(報告)【資料1-1、1-2】</p> <p>■熊本市障がい者相談支援事業業務委託及び熊本市障がい者地域支援事業業務委託の公募結果について(報告)【資料2】</p> <p>■サービス等利用計画作成に係るモニタリングの取り扱いについて(相談支援部会提案内容に係る進捗状況報告)【資料3】</p> <p>■平成30年度制度改正について【資料4】</p>
会長	<p>ただ今の説明に関して、ご質問等があればお願いします。</p> <p>(質問等なし)</p> <p>次の議題に移りたいと思います。</p> <p>(2) 各部会報告</p> <p>議事(2)各部会報告に移ります。それぞれの部会報告を子ども部会、就労部会、相談支援部会、精神障がい者地域移行支援部会の順にお願いします。それぞれの報告の持ち時間は5分といたしますのでよろしくお願い致します。</p>
勝本委員	<p>【子ども部会】</p> <p>前回の11月の本議会以降のご報告を致します。お手元の資料を見ていただくと活動の内容についてはお分かり頂けると思いますが、まず12月の部会では、11月の本会議の報告と合わせて第5期熊本市障がい福祉計画及び第1期熊本市障がい児福祉計画案について事務局から説明を頂きました。特に子ども部会ですので第1期計画となる障がい児の福祉計画については部会の中でも概要の把握を行い、質疑等あれば直接事務局にお尋ねするようになりました。</p> <p>次に1月は「愛着障がい」というテーマについて部会員の尾道さんから様々な事例を交えて話をさせて頂いて「愛着障がい」に対する考え方、対応の仕方等について知識を深めました。</p>

	<p>2月は、熊本市障がい者相談支援センター ウィズから、精神疾患のある親御さんと、発達障がいを含む複数のお子さんの支援について、かなり困難な事例でしたが、事例検討を行っています。</p> <p>この様に、今年度は事例検討を5回、ミニ研修を5回実施しまして、これを通して会員の資質向上が図られ、大変有意義であったと思っています。自立支援協議会の部会としての教育機能という活動は実施できたのではないかと考えています。しかし、自立支援協議会の部会ですので、本会議のベースとしての機能と役割を果たし得たのかという点では個人的には十分ではなかったと思っております。親の会を含めた子どもを取り巻く関係機関によるネットワーク機能とか、地域の社会資源の開発とか改善といった点で子ども部会が十分に機能したのかという事の、個人的に疑問は残っています。</p> <p>今後は、部会員にアンケートをとっております。次年度の取り組みについて方向性を検討することにしていきます。障がいのある子どもに係る今日的な課題の抽出、熊本市における障がい児一人ひとりのニーズをいかにこの地域の課題として共有し整理して、課題解決に向けて何か具体的なアクションに結び付けていかないといけないのではないかと日頃から思っております。そういう具体的な活動を次年度の年間計画の中で組み立てていければ、この本会議のベースとしての部会としての機能が果たせるのではないかと思います。是非、行政の協力も得ながら部会組織のあり方に対する検証とともに見直しを行い、次年度からは、開発機能とか調整機能に焦点を当てた活動の展開を図ることを視野に今後進めていけたらと思っています。</p>
山田委員	<p>【就労部会】</p> <p>今年度の私達の目標として、就労についての課題意識を共有するための連携、ネットワーク作りと、誰もが参加しやすくなじみやすい就労部会をモットーに取り組んでまいりました。私は部会長になり初めての年でしたので、まずネットワーク作りを強化したいと思いました。それに伴ってミニ研修を開催しましたし、毎年一番大きなイベントである就労フェアを12月に行いました。140名程に参加頂きまして、10時から4時までの長い時間でしたが、午後からは熊本市の協力も頂き、障がい者サポート企業・団体の認定式、表彰式を今年も盛り込ませていただき、大変盛会に終わりました。当日は就労セミナーで企業の方にお話をいただいたり、当事者の方を中心に企画・運営を行ったグループワーク等を参加者に体験していただきました。今年も幅の広がった就労フェアだったと思います。併せて福祉事業所の展示商談会も昨年以上に多くの事業所に参加していただきました。ただ、商談までに至らなかったところが今後の課題かと思ひ、次年度の検討事項にしたいと思っています。</p> <p>今年度は4班構成しておりましたが、企業就労班は障がい者雇用の啓発冊子「し</p>

	<p>ごといく vol. 6」がまだ最後の仕上げ中で、3月に完成予定ですが、これは障がいを持った方の就労、一般の企業で働くことを啓発した冊子です。支援者が企業を訪問するときのご案内のツールとしたり、障がい者雇用中の企業の事例を通して是非うちでも雇ってみたいと思っただけけるような大切な冊子ですので、次年度も継続して作成していきたいと思っています。</p> <p>福祉就労班では、はーとアROUNDくまもとや熊本市と協力して販売会「おとなりマルシェ」開催に取り組みました。こちらも大変好評でした。できれば次年度も取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>今年度は運営委員会を作って、部会以外に月1回、リーダー、サブリーダーが集まって、事務局を含めて意見交換していただく場を設けました。皆さんお忙しい中、参加いただき有難く思いました。次年度は更なるステップアップを目指して取り組んでいきたいと思ひます。</p>
平田委員	<p>【相談支援部会】</p> <p>資料4～5ページをご覧ください。前回会議以降の取り組みについてご報告いたします。</p> <p>1月の運営委員会で来年度に向けての班編成について協議を行いまして、計画見直し班は今年度で取り組みの区切りがついたので終了することとしました。来年度以降は、地域支援員を交えて地域生活支援拠点整備に関する検討をした方がよいのではという意見がありましたので、「拠点整備検討班(仮)」を新たに作りたひと思っています。2月21日に行った部会で、部会の皆さんに来年度どの班に所属したいかアンケートをとりました。3月にはその意見を踏まえて、意向通りにはいかないかもしれませんが、4月からの班編成をある程度確定させて、新年度からスムーズに動き出せるように考えています。</p> <p>各班の取り組み状況につきましては資料をご参照ください。資料5ページの上段に現行の相談支援部会の班編成の状況と人数を記載しています。合計で61名の参加、全員参加するということはなかなかありませんが、これが平成29年4月時点の人数です。新たに相談支援事業所を立ち上げたところにも参加いただひていますので、若干の増減はありますが、かなりの大所帯で毎月部会を開催しています。</p> <p>平成30年度から下段にお示ししている5つの班で活動していこうと考えていましたが、平成30年度から報酬改定が行われるということで、詳細が分からない部分も多いのですが、利用者の方からなかなか相談支援事業所が見つからないという話を良く聞きますし、報酬改定を機に相談支援事業所としても業務が煩雑になるのではという警戒感から計画の受入を躊躇しているのではないかという話もあって、21日の運営委員会の前に急遽、障がい保健福祉課の方にご参加頂ひて、その点についてどうするかご相談をしたところでした。ですので、新年度から5つ班を編成しようという話でしたが、案の段階ではありまするが、報酬改定に伴ひ、熊</p>

	<p>本市としてどのような運用をしていけばいいのか、相談支援の現場の意見と行政の意見を踏まえて色々検討していける班が必要ではないかという話になりまして、新たに6つ目「法改正に伴う運用検討班（仮）」を作って相談支援部会をやっていけたらと検討が進んでいるところです。具体的な協議内容等に関しては部会の皆さんと障がい保健福祉課の方と協議して検討ができればと思っているところです。</p>
<p>大山委員</p>	<p>【精神障がい者地域移行支援部会】</p> <p>今年度の取り組みということで振り返っています。</p> <p>平成27年度に実施しました、長期入院精神障がい者への意向調査の結果を踏まえて、①地域相談支援の活用と制度の検証、②地域移行支援制度の普及啓発（職員研修、ピアサポート活用拡大、啓発ツールの作成）③各区の取り組みとの連携・情報共有、④高齢介護関係機関へ向けての研修企画を目標として活動を実施しました。</p> <p>地域移行支援制度の啓発のツールとして、退院支援のポスター及びリーフレットを作業部会にて作成しています。本日配布しています資料にブルーの資料があると思いますが、これが今回作成したポスターになります。これには入院しているみなさまへということで、「手伝うけんね退院への第一歩」で利用者さんの声等を掲載しています。このポスターと併せてリーフレットも作成していますが、本会議には間に合いませんでしたが、今年度中には完成する予定です。次年度の会議で皆様に報告できたらと思っています。リーフレットは患者さんに手に取って頂きやすいようにと思って漫画仕立てにして、どのような支援が受けられるかを盛り込んだ内容にしています。このポスター、リーフレットに関しては市内の精神科の医療機関、相談支援事業所、各区役所に配布予定にしております、配布後の効果検証も行う予定にしていますので、また、本会議でもご報告していきたいと思っています。</p> <p>主な活動内容についてはお示ししている通りですが、年度後半は、各区の取り組みの進捗確認や、年度振り返りという意味で、地域移行推進における退院支援の流れ・チームアプローチについて医療機関のPSWアドバイザーの方に講演いただいています。それから、地域相談支援の事例紹介ということで、個別給付の活用の結果の紹介をしています。</p> <p>来年度の取り組みの予定としては、地域移行支援の事例検討、地域相談支援のマニュアル作成、退院支援ポスター及びリーフレット配布後の効果確認、相談支援事業所、高齢介護関係機関との交流、他職種連携の一環としての看護師や作業療法士、ヘルパー等の他職種の退院支援の取り組み紹介、ピアサポート活動報告、意見交換等を検討しているところです。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。今、各部会から報告をいただきましたが、ご意見、ご質問等はございますか。</p>

	<p>(質問等なし)</p> <p>次の議題に移りたいと思います。</p> <p>(3) テーマについての協議</p> <p>■おでかけ I Cカードに関する今後の対応について【資料6】</p> <p>今回取り扱うテーマは、「おでかけ I Cカードに関する今後の対応について」についてです。まずは、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>おでかけ I Cカードに関する今後の対応についてご報告させていただきます。</p> <p>先日新聞にも掲載されました。まず資料6はおでかけ I Cカードの今後の対応について12月議会にて健康福祉政策課から説明した際の資料です。少し時間はたっておりますが、その様な資料ということでご覧いただければと思います。</p> <p>平成28年3月に、ご存知の通りおでかけ I Cカードを導入いたしました。その後、利用実態アンケートや意見交換会を通じまして様々な意見をいただいたところです。その様な中で、熊本市優待証(さくらカード)制度は高齢者や障がい者の社会参加促進を目的に実施しておりますが、事業開始から20年以上が経過し、状況も変わっておりますことから、平成30年度に有識者を含めた検討会を健康福祉政策課において設置する予定でございます。そこで、障がい者のおでかけ I Cカードについても、自立支援協議会内部に、期間限定ではありますが、部会を立ち上げ、有識者検討会に沿った意見の集約を行いたいと考えております。部会のメンバー等につきましましては、運営会議に相談をしながら進めていきたいと考えておりますのでご協力をお願いします。また、さくらカードあるいはおでかけ I Cカードにつきましまして、今後も広報誌等で周知を行っていきたくと考えておりますので、委員の皆様におかれましてもご協力をよろしくお願い致します。</p>
会長	<p>ありがとうございました。委員の皆様から提案の内容に関してご質問やご意見がございましたらお願いします。</p>
西委員	<p>メンバーについてはまだ具体的に決まっていないということでしょうか。この中で出るということでしょうか。</p>
事務局	<p>今のところ人数は限定されておりましたが、自立支援協議会の委員さんの中から選定をさせて頂ければと思っています。</p>
西委員	<p>検討委員会に参加するということになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>補足しますと、この資料は先程説明しました通り、12月議会に健康福祉政策課から出したものです。高齢、障がいを合わせた全体で行うあり方検討会については、今少し動きがあり、まだ詳細については示されていないため分かりませんが、外部の方も入れて検討を進めていく予定です。メンバー構成等、小さいところも決まっていますので、それが決まってから皆さんに相談して進めていければと思っていますが、この自立支援協議会が次回5月ですので、そこまで待つ協議となると、</p>

	<p>あり方検討会での議論に出遅れるということも考えられます。今まで色々な意見をいただいてきて、負担増の話も出ていますので、それも含めてご意見を集約して、あり方検討会に繋いでいければと思っています。あり方検討会のメンバーが決まりましたら、自立支援協議会からどなたかにお願いをして、集約した意見を上げていただこうと思っていますが、意見の集約の仕方に関しては、部会の進め方もあろうかと思っておりますので、相談しながら進めさせていただこうと思っています。ただ、期間限定ですので、人数等も限定せず柔軟性をもって、参加されたいという方は、部会も4つありますのでお忙しいかとは思いますが、そういった動きの中でご協力いただければと。ただ、まずは運営会議にご相談をさせていただいて、どういう手法で皆さんに周知するか、相談しながら進めていければと考えています。</p>
西委員	<p>決まるのは何年度と決めていらっしゃるのではないのですか。そのためには平成30年度中には何度も部会を開かなければいけないことになるのか。</p>
事務局	<p>平成30年度中に何度か開催して平成31年度に向けて検討するという流れになると思っていますので、平成30年度初めから半年くらいまでにある程度方向性をまとめる様なイメージかと思っています。詳細はわかりません。</p>
会長	<p>では詳細がわかったら具体的に動いて、その中で運営委員会とか通じて決めていって、柔軟に、参加したい人も含めていけるような体制を作っていくことではないでしょうか。</p> <p>他に意見がなければICカードについてはこのような形で進めていきたいと思っております。</p> <p>(4) その他</p> <p>次に、議事4「その他」に移ります。事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■委員から寄せられた各種課題の整理について【資料7】</p> <p>■障害福祉サービス等に係る利用者負担軽減制度の見直しについて【資料8】</p> <p>■一般避難所、福祉避難スペースに必要な物品について ※委員所属団体へ依頼</p> <p>■世界自閉症啓発デーについて</p>
会長	<p>今の説明に関して質問があればお願いします。</p>
松村委員	<p>今の避難所の必要な物品の件、非常に障がい当事者ならびにその家族等にとりましては、こういう必要な物品について行政の方でヒヤリングされるということは心強く思い、感謝申し上げます。その上で伺いたいのですが、今の話ですと、通常の飲食物云々とか一般的な話しではなく、あくまでも自立支援協議会の中で語るような障がいの方々を想定した、必要な物品をみんなで考えましょうという話ですよ。その場合、障がい者や家族が困るということで、そのための物品という話はいくぶんわかるのですが、そのことが避難スペースの中で、多くの避難されている地域のたくさんの人達が障がいのことを良く知らないとか、障がいのあるご家族の大変</p>

	<p>さが理解できていないということで混乱されたことはあったかと思うので、物品と表するのが適切かどうかわかりませんが、各避難所に集まっている多くの人達に対して、こういう支援が必要な人達がいる、その人達にとってはこういう物品がいるんです、もっと言えば、物品とともにこういう配慮が必要なんですということを知らしめるようなもの、それは物品と呼ばれるような物とは限りませんが、そういうものも欲しいんですけども、今回のヒヤリングの中に加えてもかまいませんかという質問ですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>絵文字とか、お知らせするようなものでしょうか。そのようなものも含めて挙げてください。広くそういったものも、障がい特性がある故にということもまとめたいと思いますので。それをすぐ予算化してどうするということまでいけるかどうかわかりませんが、まずは漏れなく集めたいという趣旨です。</p>
松村委員	<p>大変心強いと思いました。ありがとうございました。</p>
会長	<p>広く色々な意見を出していただいて、ということですね。他、いかがでしょうか。</p>
江島委員	<p>障がい福祉サービス等に関わる利用負担軽減制度の見直しについての案内を出されたということですが、その後にご家族や本人さんから市に問い合わせはどのようなものがあつたか教えてください。</p>
事務局	<p>2月7日に発送しまして、翌日の夕方くらいから10件程度、一番多かったのは二日目だったと思いますけれども、二十数件連絡が入っています。丁寧にご説明をさせて頂きまして、最終的にご納得されない方も確かにいらっしゃいました。理解はするけれども納得はできないという厳しい意見も頂いています。これまでの経緯等を含めまして、丁寧に説明させていただいたところです。</p>
会長	<p>他に意見が無ければ次に移ります。</p> <p>■委員からの取り組み等紹介</p> <p>この自立支援協議会の大きな主旨として、関係機関同士の連携強化や情報共有がありますので、この本会議の場で、毎回3～4名程度の委員の皆様から一言ずつ、それぞれの取り組みや近況の報告等をいただきたいと思います。事前に事務局からお願いしています方から、1～2分程、手短かに団体の紹介や現在取り組んでいることなどをお聞かせください。</p>
本田委員	<p>熊本難病疾病団体協議会の本田千寿子です。私自身も難病患者で、I型糖尿病と関節リウマチという病気をもって過ごしています。多分他の皆さんから見たら健常者と同じようにしか見えないと思いますが、実は見えない状況の難病者がとても置いていかれている感がありまして、実は私もこの協議会に出ています、私がいる必要があるのか、私たちに関わることが話されているのかと思うことが多々あります。はっきり申し上げて申し訳ありません。去年までは中山会長がいらっしゃった</p>

	<p>ので、グイグイ食い込んでいかれていたと思いますが、まだ私は、ここに来て話を聞いたり、資料をめくるのが精一杯で、ちょっと「？」と思ってもそれをうまく表現できず、何も語らず一年終わってしまいました。もっともっと勉強していかなければいけないと思っています。</p> <p>熊難協は疾病ごとの患者会と山鹿患者会や八代患者会等の地域の患者会が一緒になって活動しています。講演会や交流会をしたり、今、ここにバッジをつけていますが、ネットで検索していただくとすぐ出ますが、RDD世界希少難治性疾患の日ということで2月29日（4年に一回）に合わせて今こういうことを取り組んでいます。これに合わせて難病ももっと啓発していこうということで、私たちは今、ウェルパルの1階でパネル展を開いています。先週まで県庁で、その前はパレアで展示させていただきました。この機会に合わせて私たちの病気のこととか、病気があっても明るく頑張っているよとアピールしているところです。今、会に参加するようになって感じるのは、熊本市の場合は、私たちが関係するのが障がい保健福祉課と医療政策課に跨っていたりして、お互いが、このことはこっちに言ってください、このことはこっちと言われるのが、どうなのかなと。例えばヘルプカードのことも医療政策課の方はご存知なかったりして、ここがうまく繋がるともう少しいいのかなと思っています。これからしっかり勉強して、2年目はできれば少しは発言できるようにして、難病患者の皆さんのためになるような代表委員になりたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。</p>
日隈委員	<p>熊本市障がい者相談支援センター いんくるの日隈です。委託相談支援事業所としては今年度で終了となりますが、指定相談支援事業所は来年度以降も続けていくつもりですのでよろしくお願いします。</p> <p>今日は運営母体であるヒューマンネットワークのご紹介をさせていただきます。出来たのが1991年ですから27年前、まだそんなに歴史が古い団体ではありません。というのは、自立生活センターという定義があるのですが、元々はアメリカで1960年代に始まった当事者運動なんです、その流れでできた団体です。基本的には当事者が運営主体となって運営を行うことがルールで、当事者同士によるピアカウンセリングやILP、サポート、権利擁護、相談、そして地域の中で生活するために必要なサービスとして、相談支援事業、地活I型、ヘルパー派遣を現在行っています。障がいを持った人達の総合的なサポートを障がい当事者が中心になって行っているところと思って頂ければいいと思います。本会議は今日が最後になりますが、今後とも何かの機会に宜しくお願いします。</p>
堀内委員	<p>看護協会から就任させていただいています。保健医療関係ということで、出席をしています。私も何年かありますが、なかなか意見を言うところまでいなくて、ですが皆さんの活発な意見で刺激をされています。部会は子ども部会に参加させていただいています。</p>

	<p>今日は、所属している熊本県看護協会についてご紹介をさせていただきます。会員数が1万5000人位います。保健師、助産師、看護師、准看護師からなる公益法人の職能団体になります。私は保健師で県で仕事をしていました。その中で精神保健とか、障がい児療育に、関わっておりましたので、退職してからも協会の方から出させていただいています。</p> <p>パンフレットの中に表示されていますように、私達看護協会は看護の質と向上と看護職が安心して働き続けられる職場作り、それから地域のニーズに応える看護領域の開発と展開を通して県民の皆様方の健康な生活の実現に寄与するということを目的として事業に取り組んでいます。そこに7つ書いてありますが、一番大きくやっているのは看護職の方々の継続研修ということで、自己研鑽や看護職の方のキャリア開発の支援、看護学会（研究学会）をやっています。熊本県ナースセンターを熊本県の委託を受けて開設をしているところです。これは看護師さん等の再就職を希望する方のために注射、採血の演習を行ったり、再就職を支援する研修を行ったり、無料の職業紹介、ハローワークも一緒にできますが、職業紹介もこのナースセンターで行っています。地域における看護職の活躍を推進するということで、訪問看護ステーションとか居宅介護支援事業所等を熊本市内と長洲で開いて活動をしています。</p> <p>また、災害時の支援ナースの派遣は、全国の看護協会からも熊本にも支援に来て頂きましたし、こちらからも出かけていくということで、災害支援ナースの派遣に力を入れています。</p> <p>それから、先日行われた熊本城マラソン、3月22日のオハイエ熊本による音楽会等、人がたくさん集まる時に看護職が救護にあたるという活動をしています。</p> <p>最後にお願いですが、私は保健医療関係から保健師職ということで看護の面から参加させていただいていますが、先程本田委員も難病を抱えて活動をされているとか、医療的なケアを要する障がい児に対する支援とかも謳われていますので保健だけではこの委員会も弱いのかなという気がしています。なぜ市の医師会の方から医療的な面での参加がないかと前々から思っておりましたので、できれば検討をよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>会長（干川委員）</p>	<p>私は教育学部の特別支援教育の課程を担当しています。特別支援の課程というと特別支援学校の先生の養成課程と思われがちなのですが、学生の半分は特別支援学校、半分は通常の小中学校の教員になっています。最近支援学校で採用されても支援学級の担任になったり、人事交流が活発に行われてきていると思います。</p> <p>これまで特別支援教育の流れの中で、通常の学級には発達障がいの子ども達にどう対応するかが喫緊の課題だと思っています。これまでは、実習というと支援学校での実習が主で、うちの課程にいてもなかなか発達障がいの子どもに関わる機会がなかったりということもありました。それで、今お手元に「ゆうサポート」のリー</p>

	<p>フレットをお配りしています。平成13年度辺りから学習支援教室ということで、発達障がいや学習につまずいている子ども達の教室をずっと行ってきました。あるいは、大学の先生が個別に色々な教育相談を受けたりということもありました。それで、このゆうサポートという相談室を平成26年度から開設しました。主に通常学級にいる発達障がい等の子ども達の指導、相談を受けるような立場です。</p> <p>支援学級のお子さんでも是非相談したいということで申し込まれる場合もありますが、支援学校、支援学級のお子様は個別に対応できるという前提がありますので、中には相談を受けて支援学級の先生にお伝えするといったこともあります。主に通常の学級にいて非常に学習につまずいていたり、あるいは行動上に問題があって困っているお子さんがいた場合に相談を受けて、教員が指導しながら学生が相談を受けていく体制をとっています。</p> <p>本年度18人が継続して通って来ていて、主に学習のつまずき、特異な間違い方をしているとか、なかなか漢字だけ覚えられないとか、そういった子どもに対して認知特性に応じた学習指導等を行っています。中にはソーシャルスキルに問題があって、そういった指導をしてほしいということもありますので、リーフレットに連絡先等も入れていますので、もし通常の学級にいて主に小学校、中学校の子ども達が多いのですが、中には幼児、あるいは高校生でも悩みがあればお受けできるかなと思っていますので、そういった人がいましたらこういう相談機会もありますのでご案内して頂けたらと思います。発達障がいの子ども達に学生が関わることで、その子達が卒業して行って現場に出て指導が出来る体制を作っていけたらと思っていますのでそういった取り組みを行っていますのでよろしくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、各委員からの取り組みの紹介についてはこれで終わりたいと思います。</p> <p>これで本日予定していた議事は終わりますが、何かこの場で委員の皆さんから「このことについて」というのがございましたら出していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>松村委員</p>	<p>こうして時間に余裕があるということが珍しいし、そういう時間の中で日頃思っていることを少しお伝えして、議題の中にはあまり関係しないことになるかもしれませんが、どうかご勘弁ください。</p> <p>障がい者自立支援協議会ということでこれまで話しをしてきているわけですが、今、干川会長がお話しされたように、学校の子ども達の中でも、手帳を取られている子ども達も勿論のことながら、そうでないけれども困難さを抱えている子ども達も多数いらっしゃいます。そういう子どもたちが学校を卒業し、社会に出て自立に取り組んでいく訳ですが、その中で私達親は常に学校から地域に出て行くときにいかに巣立ちしていくのか、障がいがあっても地域の中で自らの力で生きていくことをどうするか不安に思うし、だからこそ、この自立支援協議会等の行政を始めとし</p>

	<p>た多くの皆様方のサポートを期待し、一緒に考えていきたいとなる訳です。しかし、現実的なところを考えると、なかなか学校を今日卒業しました、だから地域社会の一員です、というところの崖といますか、この間に大変な不安感もあったり、実質的な困難さもついて回るのは、親達の話、当事者の話を聞くと良く聞くことではあります。したがって、いわゆる本当に地域の一員として、18、9くらいの子ども達、あるいは大学を出ても20代前半の人達が、そこで生き生きとして暮らしていくためのソフトランディングという大変ですが、その期間の様々な支援の充実、検討の具体的な取り組みについて、この自立支援協議会はこれまでもたくさん話しをしてきていると思いますが、もっと具体性のある、実効性のある、財政的にもちゃんと担保がされている、そういう議論が願わくば次年度からのこの協議会、あるいは各部会の中でより一層話しが進んで頂きたいなど。そのために私達親の会も色々な話に参加しながらというふうに思っています。というのも、新しい計画の話が今年度はずっとありました。来年度はまた障がい者プランの話になっていきます。当然地域移行というテーマは間違いなく無くなることはありません。いかに地域の中で障がいのある人達が生きていくか、そのために、「はい、明日からあなたは社会人です」ではどうしてもない。その一人一人に合った、そこにうまく乗かっていくための、ある人によっては幼稚園生が習うような身近自立のことをまだしなければいけない人もいるかもしれません。ある人は、ソーシャルスキルを身につける人もいるかもしれない。様々な、その一人一人にとっての支援の具体的なものがあるかと思うので、そういうことが、より具体的に現実的に財政的にもきちんと話しができるという、率直な親としての思いで、そういう話を私もしていきたいと思っていますので、皆様からの色々なご意見、ご支援、お知恵を借りながら進めさせていただければと思います。最後はお願いという形になりましたがせっかくの機会ですので申し上げます。</p>
会長	<p>学校から地域への移行を部会の共通テーマみたいなかたちで各部会とこの本会議でもその事について深めていくようなご提案かと思えます。</p>
松村委員	<p>日頃からどうしてもここは福祉の関係がありますけれども、色々な部署との連携をお願いします。その中でも教育と福祉の連携は昔から言われているけれども、今でも言われるということは、何か問題があるということはどうしても実感するものですから。本当にそこがリアルな話として連携をいかにとっていくことについて、次年度以降、話が出来ればと切に思っています。</p>
会長	<p>このご意見を活かしていきたいと思っています。この意見を受けてでも、それ以外でもかまいませんが他にありませんでしょうか。</p>
本田委員	<p>違うことかもしれませんが、この協議会の日程と時間のことですが、いつも私も含めて体が不自由な方もいらっしゃる中で、5時に終わったり、5時を過ぎて帰るとするのは、とても人ごみが多かったり、車が多かったりで厳しいところがあります。</p>

	<p>す。私は今車で来ていますが、もしかして来年誰かに代わったとき、その人は公共交通機関で来るかもしれませんが、5時を過ぎたバスに乗れるという人も限られてきます。そういった状況なので、もしも可能であれば2時～4時で開催して頂けたらとても助かるんですが。熊本市近辺の渋滞は凄まじいので、1台でも車が減った方がいいと思いますので、もしご検討いただけたら嬉しく思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。ご相談させていただいてと思います。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。今年度4回目の会議ですけれども、色々な課題も一定程度は見えてきたところです。相談支援でなかなか決定ができないとか、ヘルパー不足の問題とかは非常に大きな問題ですし、親亡き後の不安も大きな問題です。そのような中で各部会からの報告もありましたけれども、勝本委員からも子ども部会で課題を提案できるようなものができればとの話もございましたし、就労部会では販売会の話が出ましたが、来年度も販売会の継続もできるように予算確保の動きもあるところです。それと、親亡き後の話は来年度から地域支援事業もスタートしますので、これをいかに検証しながら全市に広げていくかといったところだろうと思います。松村委員からも言われました、来年度はプラン策定もごございますので、教育との連携といったものも進めていく必要があろうかと思えます。</p> <p>今年度最後ですけれども、お忙しい中ご協力頂きましてありがとうございます。引き続き少しでも熊本市にいらっしゃる障がいのある方が安心して暮らせるよう、この会が運営できればと思いますので、今後ともご協力いただきますようお願いを申し上げます。簡単ではございますがお話しさせていただきました。ありがとうございました。</p>
会長	<p>ありがとうございました。では本日の議事をこれで終了したいと思います。事務局から連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>3 事務局連絡</p> <p>次年度の会議の連絡をいたします。次年度の開催予定は、本日資料として配布しています、平成30年度 熊本市障がい者自立支援協議会日程（予定）のとおりです。日時、開催場所は現在の予定であり、変更する可能性もありますのでご了承ください。</p> <p>これをもちまして、平成29年度第4回熊本市障がい者自立支援協議会を終了致します。長時間に亘るご審議ありがとうございました。</p> <p>4 閉会</p>